

港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561

7 2 号

HP <http://kohoku-saibora.jimdo.com>

FB 港北区災害ボランティア連絡会

2019 年 1 月



* 入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください

皆様、新年あけましておめでとうございます

港北区災害ボランティア連絡会会長 宇田川規夫

2018 年は「猛暑来襲」と言われ、今年という言葉として「災」が選ばれるほど全国的に災害が続いた年でした。西日本豪雨、大阪北部地震、北海道胆振東部地震、東から西へと迷走した台風 12 号、そして猛暑です。多くの人がこの異常な状態は来年も続くのではないかと考えています。猛暑は地球温暖化と言う地球全体の問題、地震は私たちの足元の大地が揺れ動くと言う問題、それぞれに直接の関連はありませんが、猛暑の中での避難生活を考えれば、避難所内で死者が出そうな環境になる事は容易に想像できます。それぞれへの対応が必要となります。

東日本大震災とその後の福島第一原発の爆発事故は私たちにどのような生活スタイルが望ましいものなのかよく考えろとの問いを突きつけてきました。地球温暖化と防災は縁がない話ではないのです。

私たちは地域防災力を高める、そしていざと言う時は多くのボランティアの力を地域復興のために生かすという 2 つの目的を持って活動を続けています。どちらの課題も、見て、聴いて、学んで、動いて、といった地道な活動の中から解決策が出てきます。ややもすると堅苦しい話になりそうな防災ですが、今年は「明るい防災」「楽しい防災」「やりたくなる防災」としたいですね。そのためには会員皆さんの提案、ご意見、活動が不可欠です。会員一人一人が引っ張っていく 2019 年の連絡会の活動となるよう力を出し合いましょう。



「東京防災」を読んだ

配りっぱなしだったこの本の読み合わせを 12 月定例会で初めて行うことができました。この種の本の読み方で大事なのは書いてあることを鵜呑みにしないことです。ある意味「あら探し」をするような読み方をすることでその本の意味をはっきりと掴むことができます。

「災害から守ろう命・暮らし・思い出」
今回はこの本の中から

1. Shake Out を行い身を守る判断力を身に付けよう



阪神淡路大震災（芦屋市）

2. 発災時の家族の安否確認方法を確認しあおう
3. 自宅の中で安全に行動できるよう家具の転倒防止だけでなく、吊り戸棚からの落下防止を確実にしようといった点を再確認しました。集まった会員の中でこれらすべてはに対策を立てている人はまだいないのが実情でした。私たちがきちんと対策しご近所や来訪者にモデルハウスとなった我が家を披露することでお茶の間防災が展開できます。

「震災対策技術展」案内

2月7日(木)・8日(金)10時～17時

会場はパシフィコ横浜ですから近いですよ。

名前の通り災害対策に関する最新のハードとソフトが集まった展示会です。会場が近いのも便利です。展示だけではなく無料で一流の講師の話が聞けるセミナーが豊富なのも魅力です。今回は、市民の防災力を生かすためにか、避難所運営の問題とか、SNSを使った災害情報収集など私たちに身近なセミナーも多くあります。

「震災対策技術展 横浜」で検索

シミュレーション報告

今回のシミュレーションは

1部では区、社協と無線交信で災害ボランティアセンター開設の事務連絡を取り、ボラセンの開設・運営開始訓練を行った。

2部ではそのボラセンに拠点からのボランティア派遣として**1. 障害**を持った人々が災害時の避



活動前のボランティアへ

難生活での困り事をニーズとして取り上げ、参加された皆さんにボランティア役を、連絡会メンバーがコーディネーター役でマッチング訓練を行い、2. 拠点とともにボランティアが解決するために情報確認するやり取りの訓練



拠点に見立てた区役所で、拠点委員とボランティアが活動内容を共有

を行った。その後のグループワークで**3. 障害者**の様々な困り事への理解を進めるというちょっと欲張りな中身で、区役所総務課・区ボランティア班、師岡小拠点委員会、セイフティーネットの協力を得て実施されました。その他には拠点委員、他区の災ボラメンバー、障害当事者や家族、支援者などバラエティーに富んだ参加者でした。

しかし、この体験だけで障害者の困り事が全て解決されたわけではありません。結論を急がず時間をかけて様々な障害者への理解を深め、アイデアを出し災害時の対応に生かしていきたいと思いました。

そして今回参加されなかった地域の皆さんも私たちと一緒に、地域には色々な方々が生活しているということをもう一度考えてみましょう。

<参加者の皆さんの声から>

- ・ 障害のある方への対応を考える機会になった
- ・ 拠点からボランティアセンターへの依頼の流れを知ることが出来た
- ・ 避難所では障害を持っているということで、一つの部屋に避難してもらうのは間

リレー連載 我が家の防災 ⑳
寺内さんちの防災

違いで、障がいによって支援のしかたが違うことが分かった（拠点委員）

- ・情報を伝える時は「簡潔に」「短く」「穏やかに」ということを学んだ
- ・障害者へどうしたらよいかを皆で考えること、具体的な方法を見つけることが大切。少しずつでも変わってほしい。自分たちも地域の中で存在を知ってもらう努力が必要だと思った（障害者のご家族）
- ・実体験として参加者が持ち帰れることが多く良かった
- ・文字ずらでは理解していても実際行わないとわからないことがあるので、今回のように色々な立場の方が参加するシミュレーションはとても有意義



障害者やその家族も交えて
グループ討議

我が家の防災心得を紹介いたします。まず『耐震設計が万全な家』に住むことが絶対条件です。そして何時でも健康体でいることこそ最大の心得としています。

現在は妻と娘の三人家族ですが、遡ること十六年前、長女が生まれるのを機に、木造アパートから鉄筋のマンションに引っ越しました。平成七年に起きた阪神・淡路大震災の影響がとても大きかったことを記憶しています。そして、東日本大震災で得た教訓として、家財道具が大きな凶器となることを知り、以降我が家の寝室には箆笥はもちろんのこと、ガラスでできた置物等、怪我する恐れのあるものはすべて排除するように心がけています。さらには、懐中電灯と手巻き式ポータブルラジオ、そして携帯電話の充電器は必ず手の届く場所に置くようにしており、緊急避難せざるおえない状況になっても慌てず行動できる健康な身体と冷静な判断を失わないことを心得としています。

災害は『必ず』起こる。だからこそ、災害を予見し、危険を回避できる取り組みが必要なのではないでしょうか。

あなたのマンションの防災対策は無用ですか？(案)

修繕と建て替えには多額の費用！
地震保険は？ 共用部分は？



室内は燃えるもので一杯！窓など開口部から延焼！消防車は来ないですよ！



マンション内と町
会と顔の見える
関係づくりが大
切ですよ！

水道・照明・空調・ガス・トイレ・
電話・EVが使えませんよ！



怪我をすると救急車は来ませんよ！家
具の固定は？ 上層階ほど揺れるよ！



写真：神戸市提供

救援物資は町会を通じて配布！情
報も同じ。仲良くしていますか？



港北小学校を訪ねて

港北小学校の5年生が、災害時の食料備蓄についての検討や防災マップ作り・避難所調査・防災対策などに総合学習で取り組んでいるということで「何か参考になる話を」と依頼され、行ってきました。港北小拠点訓練での災ボラブースをみて、先生がセッションの依頼を思いつかれたそうで、ボーイスカウト横浜8団のリーダーが港北小で学習支援されている関係で、中島のところに話が飛び込んできました。

依頼があったのが12月8日(土)、先生との打ち合わせが12月12日(水)、本番が12月13日(木)という超スピードでの対応でしたが、なんとか好評に済ませることができたと思います。「無理なくできる「防災」「災害対策」を考えよう」をテーマに2時限話をしてきました。



生徒のグループそれぞれの研究テーマに合わせて

○□食料備蓄&ローリングストック法・防災マップ

○□非常用持ち出し&防災グッズ・避難所についての簡単なセッションを行いました。45分2回ははあっという間でした。(小学生の時45分の授業時間は長く感じたのですが・・・)

食料備蓄では、いわゆる「防災食」だけでなく、お米や乾麺・缶詰・レトルト食品・インスタント麺などを「少し多めに」購入してローリングストックすることも重要だと、話しました。

非常用持ち出しとして、横浜市のHPにはいまだに「通帳・印鑑」がありました。「今は通帳・印鑑は持ち出さなくて大丈夫なので、おじいちゃん・、おばあちゃんに教えてあげてね」と話すと、嬉しそうにうなずいてくれていました。

また、熱心な質問攻勢には驚くと同時に、感心させられました。

私が一番回答に悩んだ質問です。

「普段遊びに行くときに、いつも持っていたほうがいいものってありますか？」

さて、皆さんならどう答えますか？

(中島一郎)

Shake Out

- ・ 1分間の安全確保行動
- ・ いっせい防災行動訓練



まずひくく

DROP!



あたまをまもり

COVER!



うごかない

HOLD ON!

提供：効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議

シェイクアウト訓練 検索

<http://www.shakeout.jp/>

編集後記

☆今年心を入れ替えて早めの完成と、中身の読み易さを追求します。(宇田川)

☆港北小の5年生の生徒が、熱心に「防災・減災」の研究をしています。新聞スリッパや段ボールでの居住スペース作りにも取り組んでいました。(中島)

☆PC がウイルスにやられてしまうという幸先の悪い初夢を見ました。ウイルスは悪意ある人災ですね。(室伏)

☆新年を迎えても、小さな地震など日本に限らず、どこかで発生しています。どんな心構えでいればいいのか悩みます。(付岡)